2024年度活水女子大学卒業式式辞

学長　広瀬　訓

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご列席くださいました保護者の皆様、お子様のご卒業、お祝い申し上げます。また、これまでの活水学院に対する様々なご支援、ご協力に対し、心から御礼申し上げます。さらに、ご多忙の中、ご列席いただいております来賓の方々にも御礼申し上げます。

思い起こせば、今日卒業を迎える皆さんが入学した時には、まだコロナウィルスの感染が収まったとは言えず、様々な制限があった中で、少しずつ、「普通の日常」と言われるものが戻りつつあった頃でした。同時に、「ポスト・コロナ」と呼ばれる、新しい生活様式もあちこちで見られるようになりました。しかし、ちょっと皆さんの大学生活を振り返ってみてください。当たり前のことですが、学生の皆さんは、コロナ以前のキャンパスのことは体験してはいません。ですから、コロナ以降の大学生活の、何が、どう以前から変わったのかについて、実は、皆さんは、自分の経験として比較することはできないのです。

私たちは、自分の人生を一度しか生きることはできません。自分の人生を振り返ることはできても、後戻りすることはできないのです。私たちの目の前にあるのは、常に新しい時代、新しい世界です。大切なことは、そこへ一歩を踏み出す勇気を持つことができるかどうかです。今も、昔も、そして未来も、私たちの前にはいつも新しい、未知の世界が広がっています。私たちは、過去を振り返り、過去の経験から学ぶことはできますが、それは前に進むために他なりません。たとえそれが大きなことであっても、小さなことであっても、私たちの毎日は、新しいことへのチャレンジに満ちているのです。

それでは、私たちは、過去から、何を、どう学ぶべきなのでしょうか。もちろん一つには、過去の経験、特に失敗から、次に同じような状況になった時に、より良い対応をするためにはどうしたらよいのかを学ぶということがあります。皆さんが「学問」として、大学で学んだ知識や技術は、これまで数えきれないほど多くの人々が、長い時間をかけ、多くの試みと失敗を重ねながら築いてきた成果を共有したものに異なりません。このような「学問」は、日々、進歩し続けます。皆さんが活水女子大学で学んだ知識や技術を本当に生かすためには、これからも学び続ける姿勢を忘れてはいけません。学ぶということは、学校を終えたからといって終わるものでは決してありません。これから皆さんが、どこで、どのような仕事をするうえでも、あるいは家庭を築くうえでも、新しい日々に向かい合うためには、必ず新しい知識や技術が必要になることでしょう。皆さんが活水女子大学で学んだことは、皆さんの人生の土台となるでしょう。そして、これから皆さんは、その土台の上に、一人一人が、人生

という家を建てることになるのです。どのように柱を立て、壁を作り、屋根を架けるのかは、これから先、社会の中で、皆さんがどのように成長していくかによって決まります。自分が思い描いた人生へ向けて、一人一人が、たゆまず学び続けることを期待します。

もう一つ、過去を振り返った時に学べることは、どんなに社会が移り変わっても、変わらないものがあるということです。活水女子大学は、145 年前に、一人のアメリカ人宣教師によって建てられました。この 145 年間、日本も、そして世界も大きく変わりました。もちろん活水もたった一人の生徒を相手にエリザベス・ラッセル先生が授業を始めた時と、今の活水学院では何もかもが違っているように見えるかもしれません。また、授業の内容も大きく変わっているに違いありません。しかし、145 年前の活水と、今の活水はまったく別の学校なのでしょうか。決してそうではありません。活水には、創設以来、145 年にわたって脈々と受け継がれてきた精神があります。145 年前、ラッセル先生がこの地で初めての学生を迎えた時を想像してみてください。ラッセル先生の前に広がっていたのは、すべてが「未知」の経験だったはずです。そして、何があろうとも、簡単にアメリカに帰ることなど不可能だったに違いありません。それからの 40 年、ラッセル先生は、いつも、多くの問題や困難に立ち向かう日々を過ごしたことでしょう。それでも、ひたすらに、自分の信仰と信念に基づき、歩み続けたその姿勢こそが、「活水の精神」にほかならないと私は思います。その後も、活水の歩んできた道のりは、決して平坦ではありません。様々な困難に直面する度に、活水の諸先輩方は、ラッセル先生の精神を受け継ぎ、問題に立ち向かってきました。

もちろん、私は、卒業生一人一人が、幸せな、恵まれた人生を歩むことを心から願っています。しかし、同時に、何の困難も、挫折も経験しない人生などありえないことも知っています。これからの人生でも、過去の経験からだけでは解決できないような困難に出会うことがあっても不思議ではありません。皆さんが、大学で学んだ知識や技術では解決できないような問題に取り組まなければならないこともきっとあるだろうと思います。そういう時にこそ、「活水の精神」を思い出してください。

ラッセル先生をはじめとして、活水の諸先輩方の辿った道筋を振り返る時、そこに息づく精神は、まさにパイオニア、先駆者であることを恐れない精神です。自らの足で、未踏の地へと赴くことを厭わない勇気です。活水の卒業生を紹介する時に、どれだけ「日本で初めて」という言葉が使われてきたことでしょうか。しかし、これは必ずしも社会的に大きな功績を残すということだけではありません。大きなことでも、小さなことでも、自分が正しいと思う方向へ、歩みを止めないということです。聖書に「ごく小さなことに忠実な者は、大きな事にも忠実である」（ルカ　16：10）とある通り、小さなこと、身近なことから、勇気を持って取り組むという姿勢こそが大切なのです。

今、日本では少子高齢化が進み、世界でも紛争、地球温暖化、環境、貧困、格差等、様々な問題が山積し、世界も、日本も不透明な時代に入りつつあるのではないかという不安があります。その不安は、私たち一人一人の日常生活にも様々な影を落としつつあるかもしれません。しかし、人間の歴史は、多くの不安や困難を克服しながら進んできた歴史でもあります。今、必要とされているのは、そのような不安や困難に立ち向かう勇気ではないでしょうか。私は、皆さん一人一人が、立ち止まることなく、それぞれの目標へ向かって歩み続ける勇気を持つことを期待しています。私たちの力の源である、主なる神様は、「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ書　41：10）と言ってくださっています。皆さんが、いつまでも神様から与えられる活ける水に潤され、それぞれの夢へ向かって歩み続けられることをお祈りし、学長式辞といたします。

2025 年 3 月 14 日　活水女子大学　学長　広瀬　訓